

今も残す証言テープ

「悪魔の飽食」の記録 1 基礎

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

ある録音テープを聴かせから湯気が上がった

ていただいた。ベストセラー本「悪魔の飽食」の執いた?

筆に使われた音源だ。「いました。賢い男も

菌を飲ますわけですか? シナ靴を編んでくれたマル

証言者「そう。私が生菌を飲ませる。予防接種をし

たマルタと、そうでないマルタ。何人かに飲ませて比

罪の意識は? 「当時はなかった。すで

較する。3日もすれば濃血に死んだ人間だと思え

便が出て、かわいそうなおとになる」

徹底的に教育された。それ

一人体を使って実験する あ、はあ(長いため息)

わけですね?

「そう。転帰(死亡)し

たとなつたらすぐに解剖。1(昭和56)年、大手出版

社から発刊されたノンフィ

クション作品だ。販売部数

た。現地は大変寒い。内臓

クシオン作品だ。販売部数

は翌年発刊の2部と合わせ、当時だけで280万部を超えた。

「悪魔」とは旧日本陸軍材・執筆ではなく、1人のベストセラー誕生の礎と

731部隊を指す。日本支配下の中国東北部(旧満州)・ハルビン市郊外で、マルタと

称した外国人捕虜たちを日下里正樹さん(84)は当る秘密の暴露だった。

々監獄に運び、閉じ込めて時、政党機関紙の記者で44のちにフリージャーナリ

実験材料とし、細菌投与、歳、森村さんに請われ、同ストとしても活躍し、7年

解剖、細菌兵器や毒ガスの機関紙の記者を続けながら前から妻の故郷である高知

市で暮らす下里さんに、本

専属秘書となり、元隊員た

ちを訪ねて歩いた。誕生にまつわるドラマとス

81年当時、大半の日本人

冒頭の二問一答は、下里

は、部隊の存在すら知らな

さん、ある証言者とのや

かった。作品は戦中戦後、

りとりだ。希代のヒット本はどのよ

知られることのなかった歴

長野、新潟、秋田、兵

ほどのようにして過去を語

史を世に出した。庫、三重、広島、愛媛、大

つたのか。戦史の空白と呼

著者は作家の森村誠一さ

分、高知。各地で得た証

ばれたなぞの部隊は、証言

るならば森村さん単独の取

いった。見せたのか。

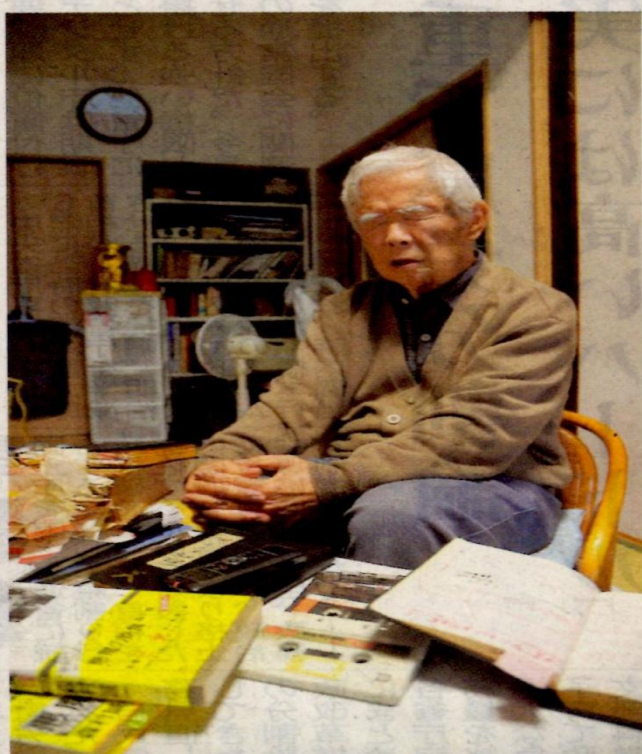
「証言を聞くのが苦しい。なんで俺が聞き手なんだ。そう思うことがよくあった」。「悪魔の飽食」取材の記録を語る下里正樹さん(高知市内の自宅)

「年寄りの1年はあなた方の何年にもなる。日々、いつ記憶が飛ぶかもしれないという恐怖との闘いだ」

今年「悪魔の飽食」の発刊40年。満州事変から90年の年とも重なる。作品が現代を照らすものは何だろうか。

下里さんは手元にメモ帳と、古びた録音テープを置いた。

(編集委員・石井 研)



ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

悪魔の飽食」の記録

■2■

1981年春。都内にあつた。この人は元隊員ではある政経新聞の編集部にかかないか。掘り出しものもなかった。1本の電話が、時代々があるかもしれない」の分岐点となった。

下里正樹さんは、同紙で実験を行ったとされる部隊中の森村誠一さんの小説「死の器」の編集担当者だった。ハバロフスクで開かれた軍事裁判の尋問では、終戦時

電話の主は、小説の終盤に登場した731部隊の挿絵にミスがあると切り出した。行爲の断片を語っていた。

「ゲートルを巻いている。しかし全容を示す資料は絶無に等しく、当時は「なぞを脱がない」の組織「戦史の空白」と呼ばれていた。

「調は冷静で理知的。最後はこう言った。戦後に出たことだが、隊員たちは部隊の解散時に、上官から三つを厳命を受け、戦後も

下里さんはすぐに直感を「恐怖の掟」に縛られてい

口の字の「口号棟」



た。元隊員たちは家族にも過去「部隊の存在を話さない」を秘し、社会的に身分を隠すかのような地下生活を送るな「公職に就くな」。ついていた。

男性の電話はその後もかかった。下里さんは相手の住所を聞き出し、森村さんの事情を説明した上で、指摘された挿絵の釈明に行くことにした。約束は取らず、津市の駅前に宿を取って押しかけた。

「マル秘 関東軍防疫給水部本部 満洲第七三一部隊要図」とあった。初めて見る図だった。それは上から見た部隊の配置図で、一つの村のように大きな731部隊の形状、各班の

1本の電話から取材が始まった。8カ月後に刊行された「悪魔の飽食」第1部と翌年の第2部には、731部隊の要図が図案化されて、と込まれている。その地を立ち去りたかった。男性に「やっぱりやめると言われたらおしまいだ」

(編集委員・石井研)

「悪魔の飽食」の記録

■ 3 ■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

下里正樹さんは、東京にな人柄で、黒縁の眼鏡をか
帰って作家の森村誠一さん、日焼けした顔や首筋が
と打ち合わせを行い、731部 精やかな印象を与えた。

隊の取材を始める方向で意 其の後も何度も足を運ん
見が一致した。

森村さんは「強烈な使命」を迎えた。帰ってからは、
を感じ取ったようだった。 どの部隊にいたかとも言
程なく政党機関紙の編集長 ない。軍属の恩給の申請も
に直接掛け合った。 できない。履歴書すら書け

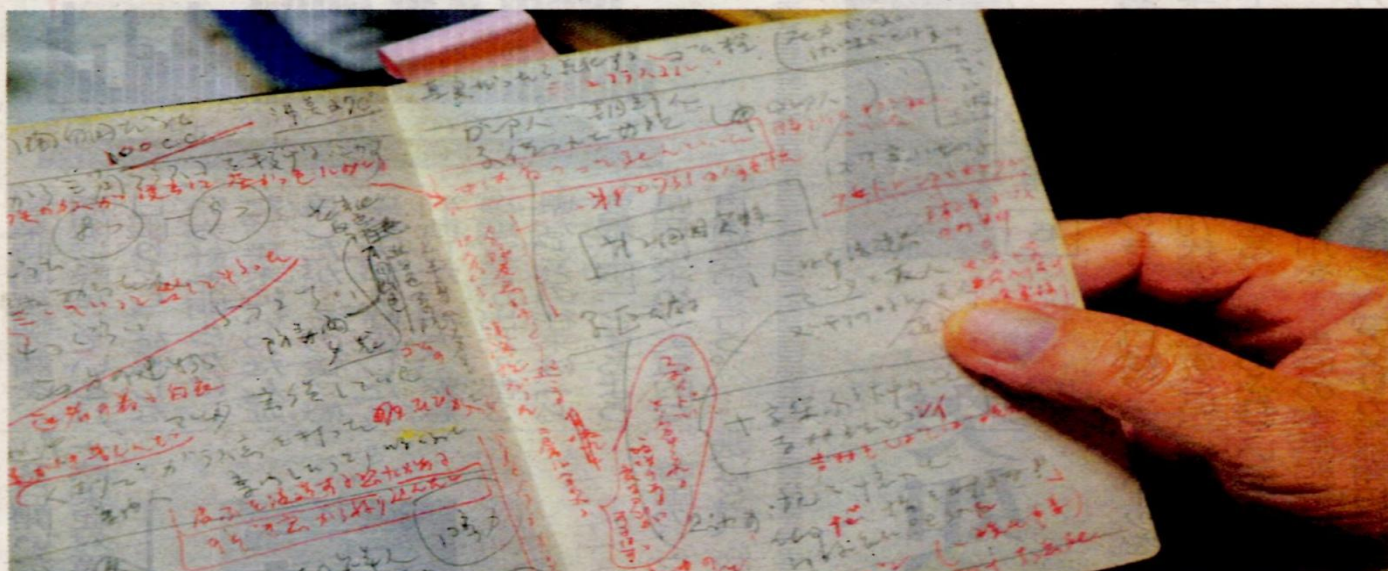
下里さんを森村さんの一 ない人生だ。おれらの青春
時的な「個人秘書」とし、は何だったのかと思う」と
森村さんの指揮と責任の下 言った。

で、731部隊の取材とリポー Yさんは兵要地誌班に配
トの執筆をさせる方針が固 属された第1期の少年隊員
まった。 だった。少年隊員は1日勤

部隊の配置図を見せてく 務した後、宿舎などで親し
れた元731部隊のY・Tさん く話すことがよくあった。
は当時50代半ばで、三重県 「おれ、きょうこんなもの
中部に暮らし、美容・洗顔 見た」。少年たちはいわば
器具を販売していた。実直 「最前線の情報集団」であ

文字通りの走り書き

り、自分たちの部隊が「恐 在軍中からうすうす知って
るべき場所」であることを
いた。



隊員相互の連絡は戦後の 警察に行こう」と
禁忌だったが、元少年隊の 言い、別の人は「731にいた
懇親会が年1回、こっそり ことは女房、子どもにも言
行われていた。Yさんはそ っていない。場所を変えよう」
の交友を生かし、部隊中 枢と服をつかんだ。
で行われた実験の概略や内 1981年7月、政党機
実を戦友から聞き取って 関紙の紙面で「悪魔の飽
た。

Yさんは「戦争を知らな 下里さんは売れっ子人
い世代に、こういう恐ろし 気作家の事務所の一室を根
いことがあったと伝える 必城として、メモと録音ア
要がある」と語り、下里 ぎを手に走り回った。

んにも協力した。Yさん の 原稿は下里さんがまず書
つてや名簿で、取材リス ト き、森村さんに渡して合議
を作った。

下里さんの全国行脚は、 した。

Yさんとの出会いに始ま った。「連載の序盤は、ほとん
た。ある元隊員には血相を どYさんの持つ情報で書き
変えて追い払われた。ある 進めた。Yさんが運転する
人は「分かった。いずれ戦 車の助手席に乗って、私が
犯で牢に捕らわれると思 っ

メモ帳を手に走り回る日々。 書いたこともある。読み
ほとんどの元隊員は門前 上げて聞いてもらい、そう
だったり、口をつぐんだり じゃない、ああじゃない
たが、やがて…。写真は足 じと。文字通りの走り書きだ」
げく通った相手の取材メモ (編集委員・石井 研)

「悪魔の飽食」の記録

■ 4 ■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

各地に取材を重ね、下里に、マルタって何ですか？
正樹さんは重要証言を一つ一つ聞いてたんですよ。そ
ずつ集めていった。したら、ばか、捕虜のこと

「マルタをこの目で直接だ。木の丸太ってことだ。
見た」と最初に語ったのは、そんなことも知らねえのか
大分市在住のM・Kさん(つて)

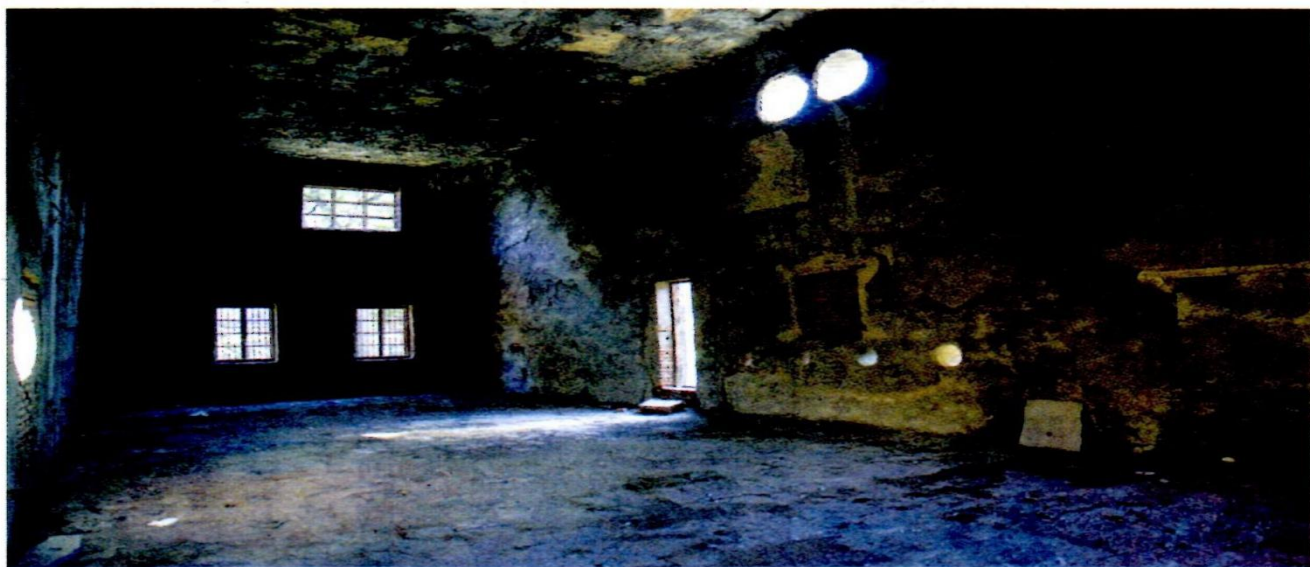
当時50代前半だった。元 Mさんはペストやコレラ
少年隊員で、「秘密主義」を 菌などの製造・貯蔵チーム
極めた731部隊の日々から語 で下働きをしていた。その
り始めた。 建物の屋上に興味本位でこ

「大分の高等小学校を出 つそり上がり、見下ろした
て、満州のどこに行くかも ことがある。中庭で作業や
聞かされず募集された。来 運動をしている捕虜の一団
てみると、部隊のことは外 が見えた。

に漏らすな、班でやってる 「驚きました。男の捕虜
ことは隊員同士でも話すな は、手錠と足かせをされ、
と。私用で町に出ると先輩 動く足鎖が引きずられ
の監視があった。目隠しして、チャリン、チャリンで。
れたような生活ですよね」 すい音がした

「それであるとき、先輩 「こっちに手を振ってく

女性も子供もいた



るマルタもいた。監獄に入 女性の捕虜もいたとい
れられるような悪い人には う。ロシア人らしい女性は
全然見えなかった」 赤ちゃんを抱いていた。

赤ちゃんを抱いていた。

「女性のマルタは足かせ 法などを調べる実験は繰り
や手錠をしてなくて、子供 返し行われ、その結果を見
を胸であやしていた。持っ せられた彼が「細筆と絵の
ていたアメ玉を投げてあげ 具で彩色画にしていた」と
たかったですよ」 述べた。

収監中の捕虜は実験に供 部隊にはカメラで撮影す
され、その一つに「凍傷実 写真班があったが、当時
験」があった。この内情を はカラーフィルムがなく、
下里さんに最初に語ったの 加賀友禪の下絵描きだった
は金沢市出身の元画工の男 彼が重宝された。

性で、連絡先を探して都内 変形し、壊死した人間の
の阿佐ヶ谷駅前で会い、彼 四肢。関節から先が腐った
の仕事場だったほんこ店の 手…。在軍中にそうした絵
一隅で話を聞いた。 を見たという証言は、別の
元隊員からも得られた。

マルタの手足を冷水につ たり、零下40度の外気に
触れさせたりして凍傷を起 通った。一方、元画工の男
こさせ、状態の変化や治療 性は「思い出たくもない。
部隊とは一切かわりたく
ない」と言い、連絡はきつ
ぱり断られた。

中国ハルビン市に復元されて 残る731部隊・凍傷実験室跡。
医大教授となった元幹部が戦 後ほどなく発表した論文に
は、生後3日の赤ちゃんの指 人、モンゴル人が監獄に収
監され、母子もいた。生々
しい証言から、部隊の輪郭
が徐々に描かれた。

中国ハルビン市に復元されて 残る731部隊・凍傷実験室跡。
医大教授となった元幹部が戦 後ほどなく発表した論文に
は、生後3日の赤ちゃんの指 人、モンゴル人が監獄に収
監され、母子もいた。生々
しい証言から、部隊の輪郭
が徐々に描かれた。

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

「悪魔の飽食」の記録

■5■

「悪魔の飽食」の新聞連 人体実験。ノミの増殖作 載が始まってしばらくする 業のほか、マルタの体を露 と、元隊員の情報提供がぼ 出させ、細菌に汚染したノ ミに血を吸わせる実験を目 撃しつ寄せられた。

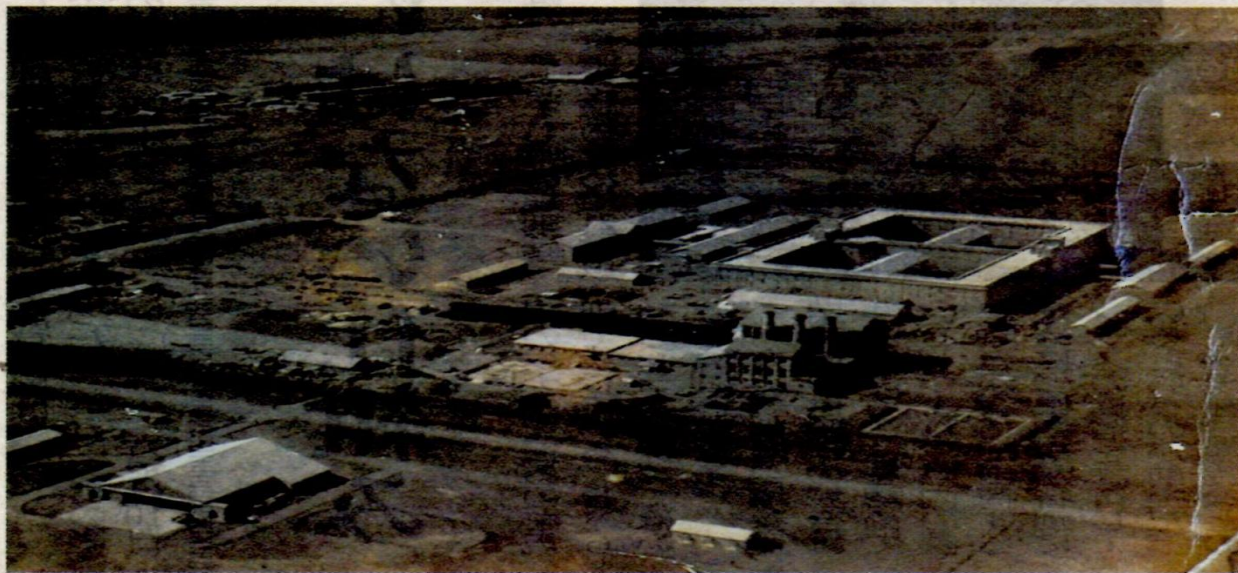
その1人のU・Nさん 撃していた。

当時71歳は、最初に現れ た「殺りくの目撃者」だっ た。電話は機関紙の編集部 にかかり、受けた下里正樹 さんに「今でも夢に見るこ とがある」と話した。

下里さんは電話を置き、 すぐ会いに走った。Uさん は731部隊の総務部印刷班に 所属した元軍属で、各研究 班から発注される書類を作 っていたという。証言の核 心は二つあった。

一つは「昆虫班」の田中 班が行っていたノミを使っ 監禁されている捕虜たちを

まさに生き地獄だ



見た。 ロシア人捕虜は、表廊下 の鉄格子を両手でつかみ、 叫んでいた。撃つなら撃て いうしぐさもした。通訳

というしぐさもした。通訳 いう。 その捕虜はしばらく後、 ある隊員の銃撃で殺され た。Uさんは、狙撃者が誰 だったのかも明かした。 捕虜の中国人、満州人の 中には座って手を合わせ、 無抵抗だと訴える人もい た。その後、同じ監獄 棟にいた捕虜たちは全員、 毒ガスや銃で殺されたとい 軍中などに聞いて知ってい ると、Uさんは言った。 マルタには名前もなく、 番号だけで呼ばれ、1本、 2本と数えられていた。 「あれは人間ではないと。 私たちは徹底的にそう教育 された。彼らはスパイとか

であって、銃殺刑で殺され る運命のもので、人類のお 役に立つようにして死なす 日本に帰ってから2年くら

量殺害した。帝銀事件が戦 後にあったらどう？ あの つぶしに調べていた。警察 がやって来て驚いた。ああ、 のかなあと覚悟した」

Uさんも戦後は公職に就 かず、都内で小さな印刷所 を経営していた。鉛の活字 が並び、印刷機が置かれた 作業場で、せきを切ったよ うに語った。

731部隊中枢の航空写真。右側 の口の字型の建物の中に「マ ルタ小屋」と呼ばれた監獄棟 がある。建設途中で撮られた ものとみられ、日本に持ち帰 られていたものを1982年 に下里さんが入手した

(編集委員・石井 研)

「悪魔の飽食」の記録

■6■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

Uさんが知る戦友の中、声を震わせ、2人は手を握って泣き続けた。

に、元731部隊の「解剖技手」がいた。Uさんが持つ戦友会の名簿で探し当て、くし、親しかった戦友同士、長野県飯田市に男性を訪ね、の36年ぶりの再会をたじたのは、1981年、梅雨 詰めた。

明けの暑い午後だった。男性は当時、60代後半。

下里正樹さんとUさんは、新聞社に運転手を付けてもらって車に乗り、約束を取らずに都内から向かった。戦後は軍歴を秘し、ひたすら、

住所地を探し当て、近くを掛けると、それが元解剖技手の男性本人だった。

予想だにしていなかったり、人体実験や解剖の話が情景が目前に現れた。

Uさんの顔を見た老人は、黙って手を握った。しばらく

解剖技手の男性は、731

人体解剖「自責の念」



隊は細菌兵器の開発を目的とした部隊であり、監獄のマルタに病原菌を感染させ、観察して実験材料との間、ずつとメスを握ってきた。悪魔だ。自責の念がある」と明かした。

「満州には4年いた。そう今思えば、ひどいことをした。1週間に1人、2人のペースで解剖した。多いとはあったと述べた。きは1日3体「命令に逆ら場にいることがきつかった。悪魔だ。自責の念がある」と明かした。

「解剖された捕虜の中に、それは中国の国民政府軍の將軍の愛人だったと聞いたと語り、その場にも立ち会ったと述べた。

解剖した対象者はすべて死体か。生体もあつたのか？ この質問を向けた時は、下里さんも心が乱れた。男性は、死体解剖が基本ではあつたが、薬剤で意図的に死にさせたり、その後とみられる状態での解剖

「戦友のUさんがいたか」と話してくれた。どういう形であれ、隠された事実というものは、必ず立ち現れてくるものだ。そう思った。遠い日の確信を振り返った。

元731部隊の解剖技手の男性は歴史的な証言をする。写真は同部隊で使われたとされるメスやはさみ(2015年12月、「高知と戦争」展の展示品から)

「1体の解剖を終える」と、靴底にたまった自分の汗で、水音が聞こえるほどだった。731部隊の解剖執刀者の証言は、戦中戦後で初のこと

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

「大変な証言に立ち会つてしまった。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。聞き手がなんでも俺なんだ？」と自問してしまつた。

悪魔の飽食』の記録

■7■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

細菌兵器の製造を目的と ほぼ持たず、解剖のメスを した131部隊。部隊内で病原 持ったと述べた。

菌を培養し、外国人捕虜に 捕虜がどの誰か。どう 感染させ、死ぬや否や人体 いう経緯で監獄に連れてこ 解剖を行っていた。

細菌はペスト、チフス、 コレラ、炭疽菌、破傷風、 で死亡したと誰が判断した 梅毒スピロヘータなどで、 のか。そもそもすべての行 人体の組織の変化を観察 為の決定者は誰なのか。そ し、標本が採集された。ま うれははずはないと語った。

た人体内で強毒化した菌を 元解剖技手の男性は「お 取り出し、培養チームに戻 国のためと思ってやった。

して再び増殖させた。 解剖に当たった元解剖技 手、後味のいいものではな 手、証言は生々しかった。 しい証言もあつた。

医師や助手ら5人ほどで この残酷な組織構造 悪 作業に当たったとしたが、 魔のようなシステムをどう 手術台に来る捕虜の情報は 表現すればよいのか。森村

この残酷な組織構造

誠一さんとの合議で進める 剖したこともあつた。死後 筆の言葉は宙をさまよっ 硬直も死斑も出ていないよ 実か? 「事実だ」 という うな状態で、法的にはま せんシーンヨナルなやりと 述べた。

解剖の対象者の中に、生 だ死亡ではないかもしれなり は文中にそのまま記し きていた人もいたかという い」と明かし、さらに踏みた。 点において、男性の証言は 込んだ証言もした。

その後、物議を醸した。 男性の証言は「悪魔の飽 解剖技手はのちに別のシ 男性は下里正樹さんに「食 の初版のハイライトの 取りにも応じ、「生体が死体 に、薬剤でパタッとやられ 「死亡直後の温かい体を解 一つとなつた。「生きてま 判別つかないような解 解剖された捕虜もいた」 した。

兵器開発のため、生きて いる人間に細菌を植え付け て病気にさせ、死後は解剖 した。元技手は、旧満州の 秘密部隊が行つた残酷の具 体を語つた。

「悪魔の飽食」の出版 後、男性は下里さんの勧め もあってテレビ番組に出演 し、実名と顔出しで、人体 解剖の事実を語っている。

国家が隠した犯罪行為の 暴露は、40年前の日本社会 を震撼させた。

(編集委員・石井 研)

「マルタは関東軍の憲兵隊特務機関が捕らえ、法手続きを経ずに131部隊の監獄に送られ 続けた。写真は捕虜への拷問の方法などを記した関東軍憲兵隊俘虜ノ尋問要領の一部

「悪魔の飽食」の記録

■8■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

「マルタ」と呼ばれた捕虜爆弾を破裂させようとして、虜の移送を行っていた男性いた。兵器の効果を実証す。1981年暮れ、下里の実験の一つだった。

正樹さんは、731部隊を深く、ところが爆発の直前、捕虜の長野市の元下級隊員と虜の1人がロープを解き、会った。ほかの捕虜を解放し、全員散り散りに逃げ出した。

K・Sさんは当時63歳。

終戦までの4年間、運輸班

「つぎせーつ」。3ヶ離れ

員として石井四郎部隊長や

た風上から双眼鏡で見ている捕虜を車で送迎した。証言たKさんは、憲兵の叫びでは詳細で、絵に描けるほどトラックに飛び乗り、ハンドルを握り、雪原を逃げる捕虜たちを追った。

1点目は、自身が加担し

捕虜たちを追った。

た行為だった。

「もし逃げられれば部隊

44年3月、同部隊は中国

の秘密実験が外にばれる。

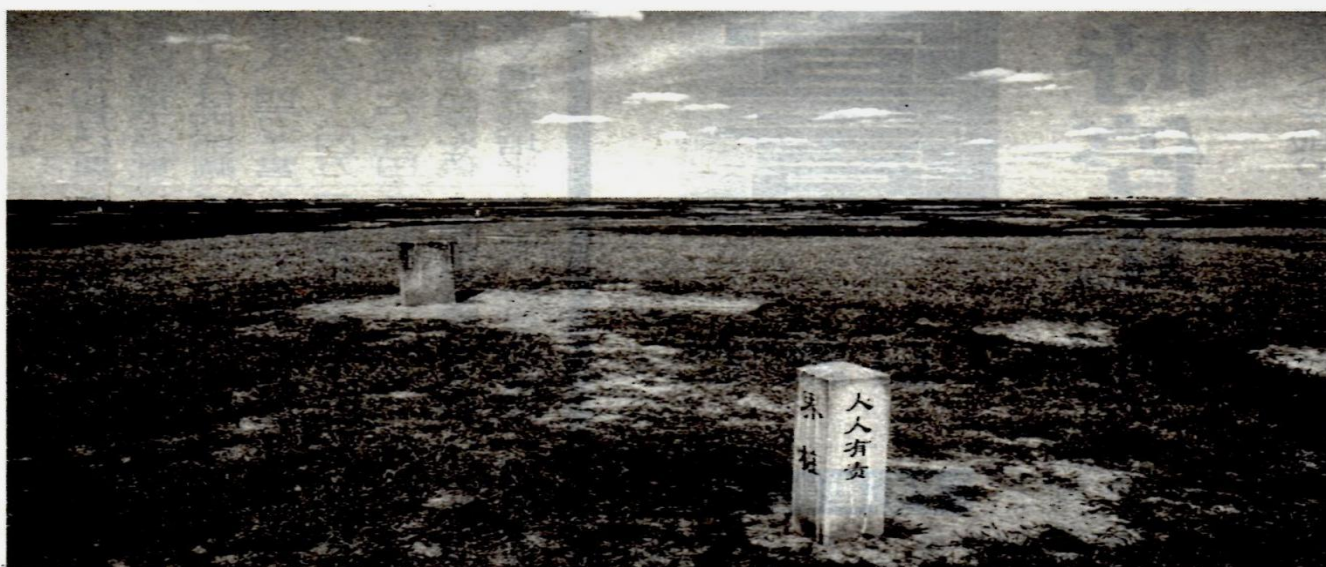
・黒竜江省安達(アムダ)の

外実験場で、十字架にくく

りつけた捕虜40人を円状に

逃げる捕虜を追った

れ帰った。生きているもの。一方、終戦の10日ほどで運んだ。部隊に到着する。隊員が監獄に青酸ガスは、使用箇所によつてまた前。ハルビンの日本領事館と診療部の隊員が「予防注を噴きさせた。それから、実験に使えるからだ」からロシア人捕虜40人を車射をする」と乗り込んでマルタを2人同士で向かい



て、1人ずつ順番に車から合わせ、首に巻いたロープ降ろし、青酸ガスを注射しを棒でねじらせ、互いの首でいった。敗色濃厚で部隊を絞めさせた」は撤収準備を始めていて、いくら命令でも、そんなマルタはもう不要という理なことはやめよと言えなかつたのですか？

「6尺を超える大きな男。下里さんの問いにKさんたちが、うめき声ひとつ上は答えた。そんなことをすげず倒れていった。声や音れば生きては帰れない。自分で気づかれないよう、車の分がマルタにされる」エンジンをかけ続けた。倒。Kさんも経歴を隠して暮れたマルタを1人ずつ、車らしていた。高僧のようなの陰に引きずった」

8月9日、ソ連参戦に伴るように語った。う撤収時のマルタ殺りく。「過去を語ることが大切これを語る証言も惨烈を極だと思つたようになった。戦争さえないければ、もつと青年らしい生き方ができたはずだ。Kさんは話しながら泣いたという。」

中国・黒竜江省安達の平原。旧満州の731部隊が細菌兵器などの人体実験場として使用した(2015年9月、高知市の写真家岡村啓佐さん撮影)

(編集委員・石井研)

悪魔の飽食』の記録

■9■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

1982年1月、下里正樹さんは他の予定を破棄し、新潟市へ1人で車を飛ばした。人けのないホテルのロビーで話を聞いた。

テレビ番組で「悪魔の飽食」が紹介され、元31部隊家で、戦後は酒類販売をしながら聞き取り取材をされていた。戦時中は毒ガス部

隊の関東軍化学部(516部隊)に所属した技術将校(大尉)に聞き取り取材をする下

里さんの姿が放映された。隊の関東軍化学部(516部隊)に所属した技術将校(大尉)に聞き取り取材をする下

里さんに、ぼそぼそと話を聞いた。43年から終戦までの各

下里さんに、ぼそぼそと話を聞いた。43年から終戦までの各

「捕虜のロシア人母子に実験を合同で行ったとい

最後の手を下したのは自分

だ。これまで誰にも言えなかった。森村誠一さんと君

「ガスチャンバー」があった。マルタを世代別に何人も入ると部隊長に頼まれた。命令もう一度と。でも、本当は

捕虜は縛り付けて台車に一緒に連れて効果を実験した。当時の自分たちは人間では

乗せ、搬入用レールを通りつた。ガスの構成は516部なかった」と語った。

下里さんは録音機を回した。隣りのガス発生室から、捕虜の母子は終戦直前まし、メソ帳に毒ガス室を描

た。隣のガス発生室から、捕虜の母子は終戦直前まし、メソ帳に毒ガス室を描

青酸ガスやイペリット、一で生きていた。米山さんはいた。酸化炭素が流入した。

「実験は頻繁にあった。ガスでひと息にやってくれ待ってください。詳しく、

「部隊が撤収するので、毒」手が震えて書けない。

「731は隔絶された秘密部隊で

は、日本陸軍、関東軍の構造の中枢にある存在だ

った」

話しながら折顔をけい

れんさせ「毒ガスの後遺症

だと言った。忘れたが、

夢に出てる」

ガスチャンバーで行われ

た実験の詳細は、元運輸班

のKさん、元写真班のFさ

んからも証言を得た。

「悪魔の飽食」第2部は

米山さんが作成したチャン

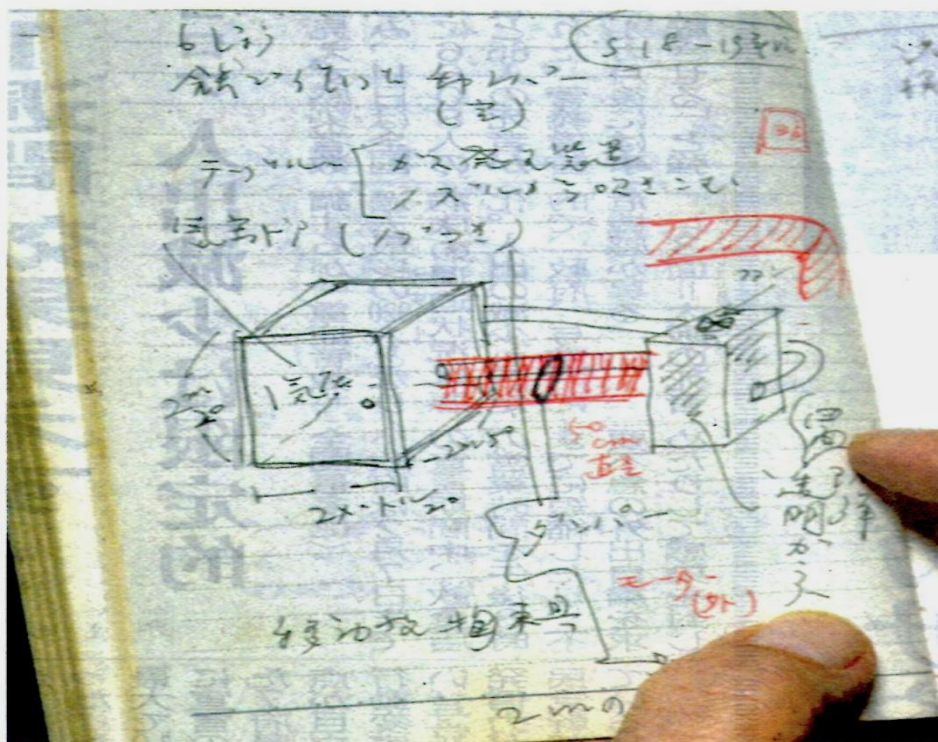
バーの図を収録する。ガス

室の存在と残虐。明示した

文献は同書しかない。

(編集委員・石井 研)

ガス実験室の存在



下里さんが書き取った毒ガス実験装置。ガラス張りの部屋にガスを入れた。米山さん(仮名)は部隊撤収時に捕虜の監獄棟で行われた毒ガス散布についても証言した

「悪魔の飽食」の記録

10

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

1981年末に発表される取材も増える。外国メディア「悪魔の飽食」は社会現象とも呼べる売れ行きとなった。森村さんと一緒に受けた。

82年1月と3月にテレビの深夜番組「悪魔の飽食」を紹介したことも大きかった。番組には森村誠一さんと下里正樹さんが出演し、元隊員がスタジオ収録などで証言した。

「視聴率が跳ね上がった。下里さんは当時の番組担当者に言われた。本の販売部数は程なく100万部を突破。森村さんと下里さんは機関紙の白曜版に続編を書き始めた。

「嵐のような毎日になった。森村さんと一緒に受けた。他のメディアも追った。翌朝にはスクープ記事が躍った。他のメディアも追った。

ブーム頂点のミス

て報道。2人が帰国する。下里さんは「のぼり」で行った。男性は最初「売国奴」日本を出て行成田空港に特設会場が作られ、三十数人の記者とカメラに囲まれた。下里さんは「言い訳をして持ち込んでいた。動機は写真と判断したので済む話ではないが、当時「金と収集家としての虚栄」は下里さんだった。持ち込めば忙しすぎて、頭心」と言った。

兄弟と親交のあった男性で、731部隊の航空写真と一緒に出版社を通じて提供し、その後、男性への取材をキガかけられた。「非国民」の表裏には大量の赤ペンが身に染みた。例えば別の取材者が証言者に聞き取りに行き、10の事実のうち枝葉の上でも違つたならば、全部つて、捏造という印象にされる。ミスが招いた付

「続・悪魔の飽食」の巻頭写真35枚のうち20枚は別物だった。「七写真事件」などと新聞雑誌が報じた。森村さんは月刊誌にいきさつを書いて載せた(コラーシユ)。

「続・悪魔の飽食」の巻頭写真35枚のうち20枚は別物だった。「七写真事件」などと新聞雑誌が報じた。森村さんは月刊誌にいきさつを書いて載せた(コラーシユ)。



「悪魔の飽食」の巻頭写真。4、7、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35枚のうち20枚は別物だった。

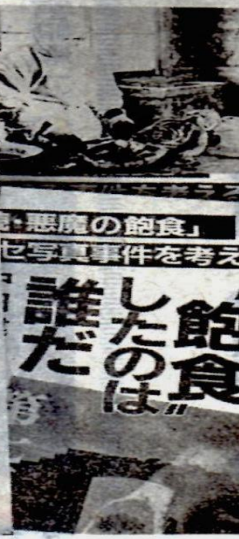


写真20枚、別物

収録の写真に別物20枚

森村氏著『続・悪魔の飽食』



私が知ったA氏の正体

「続・悪魔の飽食」の巻頭写真35枚のうち20枚は別物だった。「七写真事件」などと新聞雑誌が報じた。森村さんは月刊誌にいきさつを書いて載せた(コラーシユ)。

森村さんは「写真のミスはわびる。しかし書いたことは事実だ」と一貫して反論し、「全責任は著者の私が負う」と強調した。下里さんの失態はとがめず、月刊誌に受けた取材には「今後とも彼と一緒に組んで仕事をしたい」とかばった。(編集委員・石井 研)

「悪魔の飽食」の記録

■12■

ジャーナリスト下里正樹さん(高知市)に聞く

下里正樹さんと一緒に菌を作る

「悪魔の飽食」に使われた
音源を聞いた。約40年前の何人くらい？

録音。証言者のS・Tさん
は大阪府東大阪市の当時60人。監獄に入ってきたら
代。終戦時26歳だったとい
う。聞き手は下里さん。 験に使える均等な健康体
に

マルタに赤痢菌を飲ま
すわけですね？
「そう。何人かのマルタ
に予防接種を3回、2回、
1回、0回と分けて実施し
て、最後に毒性の強い生菌
を飲ませる」

「何人にも？」
「そう。一つの人体に投
菌を背負って飛び込むぞ
と。そんなんですよ」

「そう。一つの人体に投
菌を背負って飛び込むぞ
と。そんなんですよ」

「私が知るのには中国人の
ある労働者。本部近くで働

「私が知るのには中国人の
ある労働者。本部近くで働

ふと名を思い出す

「感極まった声であっ
ていて、積み荷のむしろ
をめぐらした。好奇心た

「90号ですね？」
「そうだ。日本語、ロシ
ヤ語、独語、何かがあり

「ア語もつまい。ソ満国境
では、どうだろうか。あ

「靴をもらったと？」
「自分は90号に名前を聞
いてた。ふと名を思い出

「唐草模様の布のシナ靴
だった。何も無い独房で
く話をした」

「奥さんによってくれ
てた。ふと名を思い出

「下里さんはSさんとT
82年に知り合い、何度か
話を聞いたという。

「Sさんの方から連絡が
ある。会いた。Sさん
は、本当は話したくない
が、話さないと持たない
と。Sさんは言葉をこらえ
ると喉がキリキリ鳴る。そ
の音が今も耳に残る」

「集めた証言は100人以上を
数えた。「悪魔をよみがえら
せてはいけない」。老ジャー
ナリストの伝言だ。

「編集委員・石井 研
二おわり



731部隊の元幹部ら12人を被告とした「ロシア・ハバロフスク裁判」公判書類の書籍。下里さんは付箋をつけ、取材に携行した